

ジェンダー教育プログラム

新学期を迎えて、どんな授業を取ろうか履修計画をたてながら心躍らせていることでしょうか。ここではみなさんの授業選びの参考に、2007年度から一橋大学で始まったジェンダー教育プログラムのカリキュラムをご紹介します。

GenEPとは？

(Gender Education Programの略)

一橋大学では、2005年度より、全学的なジェンダー教育の推進、ジェンダー研究の活性化を目指した活動に取り組んできました。2007年度にはその推進母体として社会学研究科内にジェンダー社会科学研究センターを開設し、毎年およそ50科目、延べ4000名の学生・院生みなさんにジェンダー、セクシュアリティに関わるさまざまな授業を提供しています。このような全学的プログラムはとてもユニークなものであり、多種多様な分野にまたがってこれほど多くのジェンダー関連科目を提供できる大学は一橋大学のほかにはありません。将来さまざまな分野で活躍するであろうみなさんが、全学共通教育から各学部・大学院科目にまでいたるこのジェンダー教育プログラムに積極的に参加されることを期待しています。

ジェンダー社会科学研究センター内GenEP部門
<http://www.gender.soc.hit-u.ac.jp/>

GenEPはジェンダー理論の学習を支援します。みなさんが男女共同参画社会の実現をめぐる問題に気づき、解決に必要な知識、能力、手法を身につけるためのカリキュラムを提供します。GenEPの道案内を頼りに、自らの関心をおおいに生かして、それぞれ自分のジェンダー教育プログラムを組み立て、授業を履修してください。

目指すゴールは…

- ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的知識を身につけ、その理念と方法を体系的に修得する
- さまざまな専門領域にジェンダーの視点を積極的に導入し、市民社会を解明する視座を構築する

基幹科目群

ジェンダーを授業の主軸とする科目群。導入的科目から発展的科目へという積み上げ式の履修です。ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的素養を身につけることを第一の目標にしています。さらに発展レベルでは独創的かつ先端的な研究の基礎となる理論や方法、当該研究分野に関する包括的な知見の修得をめざします。

連携科目群

ジェンダーがとりあげられる学際的な科目群。基幹科目群、および全学的な教育活動と連携しています。既存の社会科学・人文科学の枠組み・体系をジェンダーの視点から問い直していきます。

履修のツボ

緩やかなスロープ

積み上げ式の基幹科目群と学際的な連携科目群の二つの科目群を相補的に履修することができます。全学共通教育、学部教育から大学院修士・博士後期課程の教育にいたるまで、緩やかなスロープを上るように学んでいくカリキュラムがつけられています。

キャリアデザイン

ジェンダーや男女共同参画についての素養は、自分自身の価値を高め、将来像を思い描くことを助け、みなさんが市民社会や企業において構想力を発揮していくための力となるはずで。

多様なセクシュアリティ

ジェンダーとセクシュアリティを切り離して考えることはできません。人間の性のあり方とその多様性を知ることは、自分自身の生き方を考え、周りの人の生き方を尊重するためにも不可欠です。

新しい社会科学

それぞれの専門的知見を深め研究を進展させていくなかで、ジェンダーの視点から既存の社会科学のディシプリンに揺さぶりをかけ、新しい社会科学の地平を拓くことをめざしています。

履修者の声

これから社会人として生きていくうえで大切なことを考えるよい機会になった。

性について、これほど学問的に深く考えたことはなかった。新しい思考法を身につけられた気がする。

大学の中にも「男は」「女は」という言説があふれている。たくさんの学生、特に男子学生に、受けてほしいと思った。

自分の中の偏見や先入観の存在に気づくことができた。ちまたにあふれる性に関する情報を批判的に見るできるようになった。

学内リンク

一橋大学には、学生生活で困ったこと、悩んでいること、就職のこと、なんでも相談できる場所があります。
 学生支援センター <http://www.hit-u.ac.jp/shien/counseling/shien.html>

■学生相談室
 第2講義棟1階西側「いまここ」JHP
<http://www.hit-u.ac.jp/soudan/counseling/>

■ハラスメント相談室 第1講義棟1階東側
<http://www.hit-u.ac.jp/harassment/soudan.html>

■キャリア支援室

本館1階
http://www.hit-u.ac.jp/shushoku/career_support/top.html

ハラスメント防止ガイドライン

<http://www.hit-u.ac.jp/harassment/pdf/guideline.pdf>
 ハラスメントとは、人間としての尊厳を侵害する行為であり、人に対する思いやりと敬意を欠いた行為です。一橋大学は、すべての学生と教職員の人権が尊重され、ハラスメントを受けることなく、本学において修学・教育・研究し、就労することができる環境を享受できるよう努め、ガイドラインを定めています。

学部 基幹科目群

ジェンダー／セクシュアリティとライフデザイン 【社・導入／春夏・月2】

太田美幸・神谷悠一(オムニバス講義)

性の多様性をめぐる現代社会の状況を理解し、大学で学ぶジェンダーやセクシュアリティについての知見を生涯にわたる社会生活や職業生活にいかにかに活かしていくか、社会環境にいかにかにして働きかけるかを実践的に考えます。一橋大学卒業生有志団体「プライドブリッジ」からの寄附金によって開講される寄附講義です。

ヒューマンセクソロジー 【共通／春夏・火2】

水野哲夫

性は人格と深く結びついており、人権の欠かせない要素でもあり、「セクシュアリティ」として捉えるべきものです。この科目は「性の多様性とジェンダー・セクシュアリティ平等」、「生殖をめぐる科学と人間関係」、「性愛のゆくえー性の関係性を問い直す」、「さまざまな性感染症」、「性と人権をめぐる現状と展望」という章だてで、性的自己決定力の獲得をめざすものです。

クィア理論 【社・発展※／夏・火金2】

平森大規

人文学のみならず社会科学においても近年注目を集めつつあるクィア理論の基礎概念と考え方を学びます。本年度の授業では、クィア・スタディーズの基本文献に加えて、日本を事例とした研究、ブラック・クィア・スタディーズ、クィア人口学などの文献を講読し、性のあり方をめぐる社会現象を考察する上で必要不可欠な基本姿勢を身につけます。なお、この授業は英語開講科目です。

ジェンダーと人権 【共通／秋冬・月3】

辻村みよ子・谷田川知恵

社会や法におけるジェンダー(性差)、セクシュアリティの意義や課題について、人権論の視点(「ジェンダー人権論」)からアプローチします。憲法や女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法等を踏まえて、日本の男女共同参画(ジェンダー平等)の現状と課題を総点検し、人権論としてのジェンダー問題を、政治・雇用・家族・学術分野等の領域ごとに具体的に検討していきます。

ジェンダー特論／地球市民とジェンダー 【社・発展※／秋冬・火5】

千田有紀

ジェンダー論の現代的な課題と理論について学びます。ジェンダーという概念は、身体を基盤にしつつ、社会化によって性役割や性自認(ジェンダーアイデンティティ)が形成されていくという理論的方向性を可能にしました。ポスト構造主義を経てさらに、身体すらまた構築されているという視角が打ち出されました。さまざまな課題が山積されているにもかかわらず、平等が達成されたかのように語られるポストフェミニズムの時代に、ジェンダーにかんするどのような課題が残され、作られてきたのかを考えたいと思います。

ジェンダーとセクシュアリティの心理学 【社・発展／秋冬・木1】

柘植道子

心理学の視点からジェンダーとセクシュアリティにアプローチします。具体的には、セクシュアル・マイノリティ、ジェンダー・ステレオタイプ、ジェンダー役割負担、性役割態度、性差、インターセクショナルリティ、心理学研究におけるジェンダーバイアスなどを扱います。

ジェンダーから世界を読む 【共通／秋冬・金3】

町田みどり(オムニバス講義)

さまざまな時代、地域、言語文化を専門とする講師陣が、「ジェンダー」という視点を共有して、「世界」のありようを多角的に読み解くリレー講義です。いろいろな言語文化のなかのジェンダーを読み解いていきます。

学部 連携科目群

全学共通教育科目

| 頻度 | 学部・区分 | 曜日・時限 | 講義名 | 担当者 |
|----|-------|-------|-------------------------|------------|
| ○ | 共通 | 春夏・水2 | フランス語圏の社会と文化 | 尾崎文太 |
| ○ | 共通 | 春夏・水2 | 教養ゼミナール | 早坂静 |
| ○ | 共通 | 春夏・水2 | 人文学入門(哲学・思想) | 中井亜佐子 |
| ○ | 共通 | 春夏・木1 | 人文学入門(総合) | 武村知子・井上間従文 |
| ◎ | 共通 | 春・木4 | 教育と経済 | 松塚ゆかり |
| ○ | 共通 | 秋冬・水2 | 英語圏文学C | 早坂静 |
| ○ | 国際 | 冬・火金2 | Seminar on Humanities C | 井上間従文 |

学 部

| 頻度 | 学部・区分 | 曜日・時限 | 講義名 | 担当者 |
|----|-------|--------|------------------------------|---------|
| ○ | 経・発展※ | 春夏・水1 | 実験経済学 | 竹内幹 |
| ◎ | 社・発展※ | 春夏・水2 | 社会開発論B | 上田元 |
| ○ | 社・発展※ | 春・月木2 | 国際開発論A | 上田元 |
| ○ | 経・導入 | 春・月木3 | 経済思想入門 | 後藤玲子 |
| ○ | 経・基礎 | 春・月木3 | 経済史入門 | 友部謙一 |
| ○ | 社・基礎 | 春・月木3 | アメリカ社会史総論B | 中野聡 |
| ○ | 社・発展※ | 春・月木3 | 比較国際教育学／グローバル化と教育 | 太田美幸 |
| ○ | 社・基礎 | 春・火金1 | 教育の社会学B | 中田康彦 |
| ○ | 社・発展※ | 春・火金2 | 雇用関係特論 | 西野史子 |
| ○ | 社・基礎 | 春・火金3 | アジア社会史総論A | 加藤圭木 |
| ○ | 経・発展※ | 夏・月木1 | 公共経済学II(Public Economics II) | 竹内幹 |
| ○ | 社・基礎 | 夏・月木2 | ヨーロッパ社会史総論B | 阪西紀子 |
| ○ | 社・導入 | 夏・月木3 | 社会学概論 | 多田治 |
| ○ | 商・基礎 | 夏・火金1 | 原価計算 | 挽文子 |
| ○ | 社・発展※ | 夏・火金3 | 比較政治 | 田中拓道 |
| ○ | 社・発展※ | 集中 | 社会福祉 | 白瀬由美香 |
| ○ | 法・基礎 | 秋冬・火金3 | 憲法(総論・人権) | 只野雅人 |
| ★ | 社・発展※ | 秋冬・木4 | 社会文化論原典講読D | 久保哲司 |
| ★ | 社・発展※ | 秋冬・金4 | 社会文化論原典講読B | 井川ちとせ |
| ○ | 社・基礎 | 秋・火金2 | 社会学理論 | 多田治 |
| ○ | 社・導入 | 秋・火金3 | 社会学概論 | 西野史子 |
| ○ | 社・基礎 | 秋・火金3 | 政治思想 | 田中拓道 |
| ○ | 商・基礎 | 冬・月木3 | 管理会計 | 挽文子 |
| ○ | 社・基礎 | 冬・月木3 | スポーツ社会学の基礎 | 坂上・坂・鈴木 |
| ○ | 社・基礎 | 冬・火金2 | 日本社会史総論A | 石居人也 |
| ○ | 社・基礎 | 冬・火金3 | 政治学 | 中北浩爾 |

◆連携科目◆

| 頻度 | 研究科 | 曜日・時限 | 講義名 | 担当者 |
|----|-----|--------|-------------------|-------|
| ◎ | 社 | 春夏・月木2 | アメリカ研究 | 中野聡 |
| ○ | 社 | 春夏・月4 | グローバル化と移動社会／社会学 | 多田治 |
| ○ | 社 | 春夏・火2 | 文化生成研究 | 洪郁如 |
| ○ | 社 | 春夏・火3 | 多文化社会の人間形成／教育の社会史 | 太田美幸 |
| ★ | 言社 | 春夏・木2 | 英語圏文化論A | 中井亜佐子 |
| ★ | 社 | 春夏・金3 | 文芸思想研究 | 井川ちとせ |
| ○ | 社 | 秋冬・月4 | グローバル・メディア論 | 多田治 |
| ◎ | 社 | 秋冬・水2 | トラウマと地球社会 | 宮地尚子 |
| ○ | 経管 | 秋冬・木1 | 人材マネジメント | 島貫智行 |
| ★ | 言社 | 秋冬・金2 | 英語圏文学B | 三原芳秋 |

CGraSS公開レクチャー・シリーズ

ジェンダー研究の新しい方法を模索し、社会科学の手法との融合をいかにして果たすのか。社会学研究科内に設置されているジェンダー社会科学研究センター(CGraSS)では、この課題にこたえるため、さまざまな研究領域の専門家のゲスト報告者を招いて、公開レクチャー・シリーズを展開しています。また、シンポジウムの共催や合同研究会などを行い、教員・院生の相互交流を奨励・推進しています。

【参考】2019年度のCGraSS公開レクチャー・シリーズ

「占領期神戸・エゴドキュメントとしての女性軍属の手紙を読む」
2019年5月24日
講師：長志珠絵さん
(神戸大学大学院国際文化学研究所教授)

「サムライファンタジー」と「子供扱い」ー日本文化を利用した在日米兵の軍事的男性性」
2019年7月3日
講師：カール・ゲイブリエルソンさん
(カリフォルニア大学サンタバーバラ校東アジア言語・文化研究学科博士課程)

<講義におけるジェンダー関連の問題を取り上げる目安>

- ★：講義全体をジェンダーの視点から構成する
- ◎：ジェンダーを講義の一つの柱とする
- ：ジェンダーについて1,2回取り上げる

※は学部・大学院共修。

委細は各授業のシラバスで確認してください。また履修登録の際には、学士課程ガイドブック(学部)／学生便覧(大学院)に従って下さい。